

動物資源管理学特論 (2単位)

担当者氏名 白木 彩子、平山 博樹

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

本講義ではさまざまな動物資源の価値、利用と保存・保全に関わる幅広い知見について、分子生物学、家畜育種学 (経済形質)、生態学などの視点から包括的に講述する。家畜種・実験動物遺伝資源については、国内外における保存事業の現状を紹介し、それら種ごとの特性を明らかにしてその管理の意義を解説する。また、野生動物資源ではとくに鳥類をとりあげ、保全管理の基礎となる分類手法や生息環境や餌などの資源利用形態について理解することを目的とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

分子遺伝学	家畜改良	実験動物	遺伝学的特性
鳥類の分類	鳥類生態学	鳥類の環境資源利用	野生動物保全管理

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス (第1週)	・テーマ1では、講義の進め方や注意事項のほか、動物資源学とはどのような分野なのか概説する。	・各講義において資料を数枚程度配布するので、次の講義で実施する内容を予習し、質問を考えておくこと。
2	ウマ改良への分子生物学的手法 (第2~3週、平山)	・テーマ2ではウマを、テーマ3ではウシを対象とし、伝統的育種法とゲノム育種法、連鎖地図、経済形質に関するDNA多型、疾病に係るゲノム解析例、ミトコンドリアDNA多型の利用、並び我が国における系統保存事業を講述する。	・テーマ7における英語文献の輪読では、十分な予習と担当箇所についてはレジメの作成が課せられる。
3	ウシ改良への分子生物学的手法の (第4~5週、平山)		
4	実験動物の利用と維持 (第6~7週、平山)	・テーマ4ではマウスやラットを、テーマ5ではエミュールや鶏を対象とし、実験動物の利用と保存、遺伝学的特性、動物の維持・管理について併せ講述する。	・テーマ8についてはテーマ6の座学で得た知識を現実的な生態系で確認し、数ページのレポートを作成・提出する。
5	家畜の利用と維持(第8~9週、平山)	・テーマ6では鳥類の分類の基礎について講述する。古典的な手法と近年の手法の差異を理解する。	
6	鳥類の分類(第10~11週、白木)	・テーマ7では野生鳥類の生息環境や餌資源の利用形態や選好性およびその維持保全について講述するとともに、関連する英語論文や解説書を輪読する。	
7	鳥類の利用資源(座学編) (第12~13週、白木)		
8	鳥類の利用資源(野外編) (第14~15週、白木)	・テーマ8では座学で実施した内容を野外(ファイントレールほか網走周辺)における鳥類の生息現状を観察することで、確認する。	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

レジメや資料は講義中に配布する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

生態学入門/日本生態学会 (編) /東京化学同人 (2012)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

レポート、輪読課題への取り組み状況で評価する。

◆オフィスアワー

講義後に、研究室で質問を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

・調査や学会等でやむを得ず欠席する場合は、事前に申し出ること。